

観世能楽堂へ
足を運んでもらうためのアイデア

観世能楽堂

1

伝統芸能が故、鑑賞したことのない人にとって、

敷居が高そう / 難しそう / つまらなそう / 堅苦しそう

というイメージがついている。

2

他の娯楽(映画・舞台・音楽など)に比べ

能楽に触れる機会、接点が少ない



間違った認識や、マイナスイメージを持った状態で、

実際に足を運んでもらうには、**ハードルが高い…**

目的

“能楽”に対する
「服装とか分からないし、敷居が高そう...」
「ルールとかあって堅苦しそう...」などの
間違った認識や、マイナスイメージを払拭する

(強制視認性のある)OOHの媒体特性を活かして

“能楽”の世界を表現して
ターゲットとの接点を作る

“能楽”の世界に触れさせ理解促進を図り、
もっと気軽に足を運び、自由に楽しんでいいものだと気づかせる



■ 現代

- ・スマートフォン、SNS、サブスクリプションサービスの普及に伴って、情報過多&情報が早く流れている
- ・受け身ばかりの読者モード、消費者モード



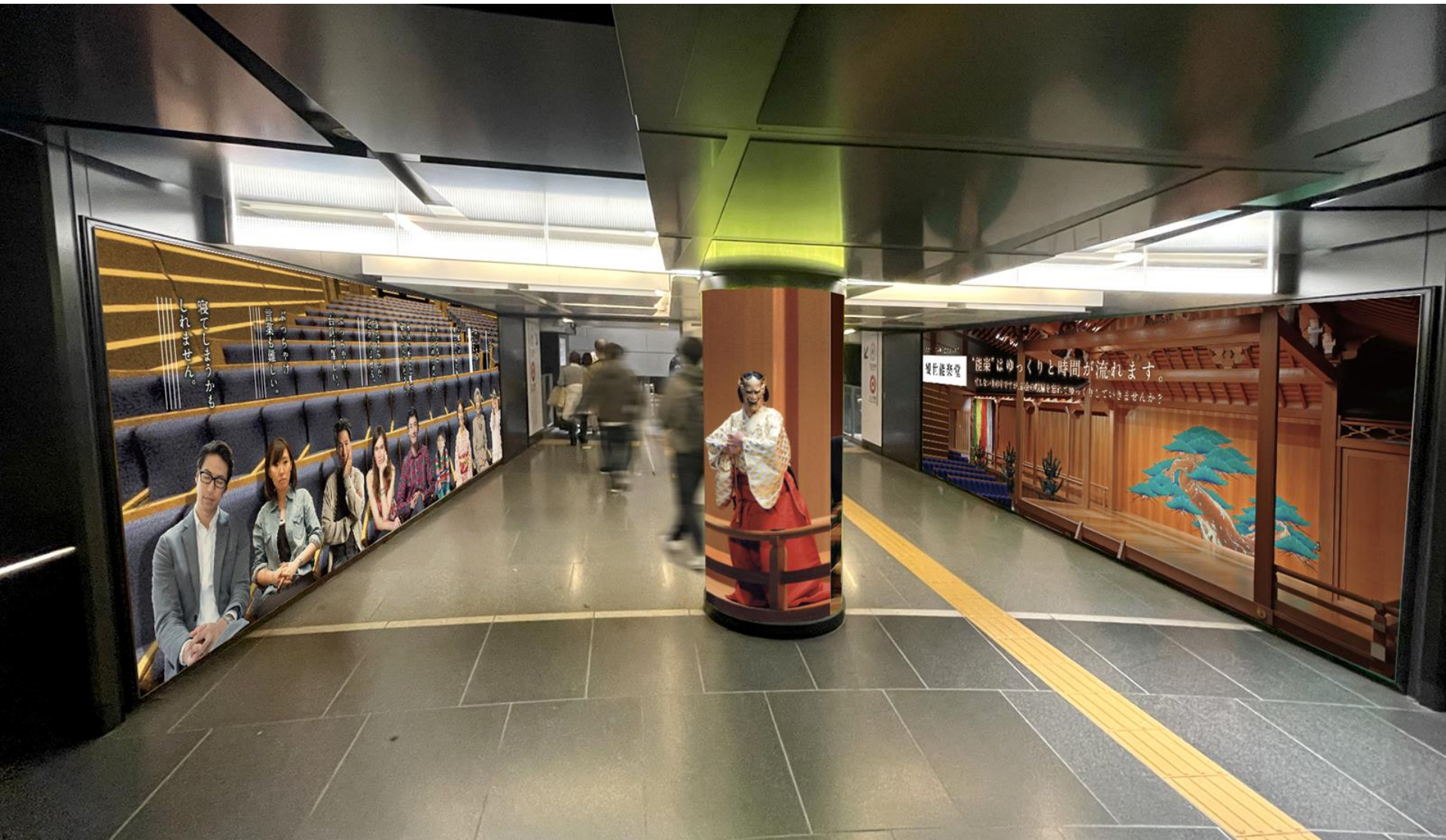
■ 能楽

- ・ゆっくりとした雰囲気、落ち着いた雰囲気に浸る
まるで別世界にいるような感覚を体験
- ・自分なりの解釈、楽しみ方を見出す

能楽鑑賞⇒**ゆっくりする時間**
今こそ、“能楽”に触れ、鑑賞する体験が必要

そろり、そろりと生きましょう。

展開イメージ



企画の概要

銀座駅の媒体（シート・柱巻き・フロア）をフルに活用し、能の舞台を表現！

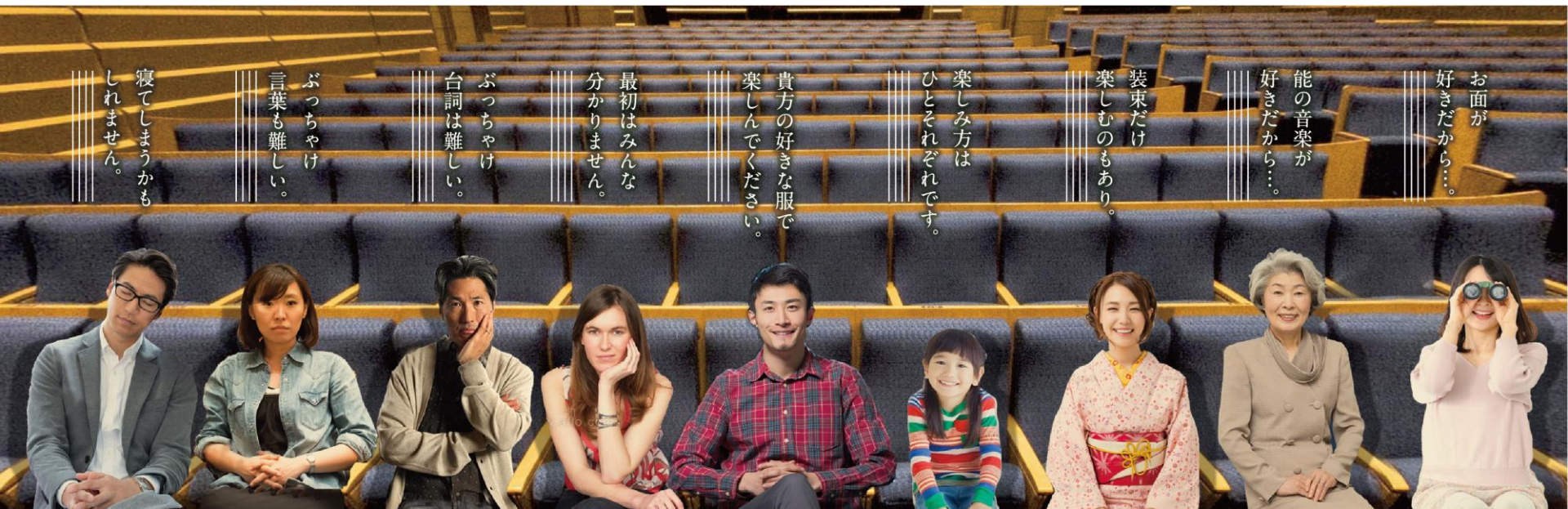
柱巻きでは、能楽師が舞う。
通行者は、気づかぬうちに能舞台の前を歩いているということになる。

⇒ 没入感のある広告を展開



企画の概要

能舞台だけではなく、舞台から見た“客席”も表現！
多様な楽しみ方を提示 & 正しい認識をコピーで捕捉
能楽鑑賞におけるハードルを下げる。



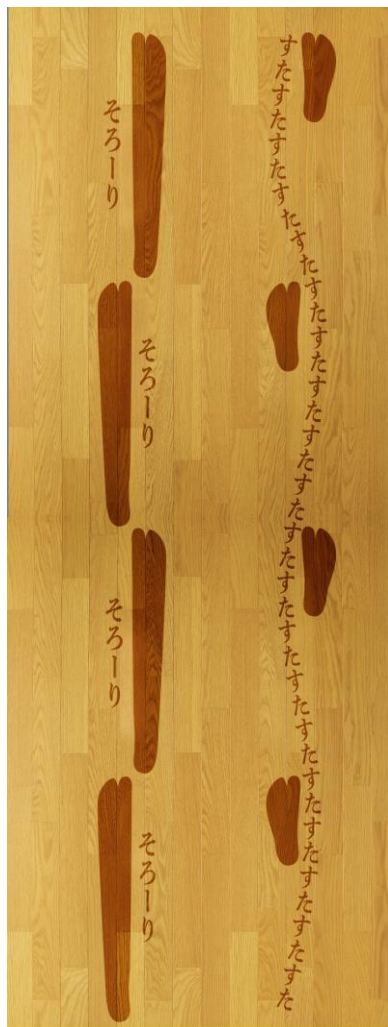
コピー案

・寝てしまうかもしれません。
一定のリズムを刻む能楽と雅楽は心音のリズムから来ていると言われており、眠ってしまうことは能を楽しんでいる証拠ですので、居眠りは気にせず観に来てください。

・ぶつちやけ台詞は難しい。
とくに狂言より能は言葉が難解です。笛の音や鼓のカケ声やリズム、動きなど舞台全体から創り出されるエネルギーを感じ取っていただけると嬉しいです。

企画の概要

オプション案として、
普通の歩行速度とは異なる、“能楽”特有のすり足を足跡で表現した「能楽道」を設け、
いつもどれほど忙しく歩いているのか、
たまには「そろり、そろりと生きる」ことも必要だ、という“気づき”を与える。



まとめ

情報も娯楽も消費される現代
そんな喧騒とした世の中からちょっと離れて、
“能楽”で、約650年前へタイムスリップしてみてもいい。
ゆっくりと流れる時間を、気軽に楽しんでみてもいい。
楽しみ方は、人それぞれ。

多くの人が「観世能楽堂」に足を運ぶきっかけになりますように...